GCOE ワーキングペーパー
次世代研究　27

近代地方都市の公立名門高等女学校における生徒文化の特徴と構造

― 学校文化と生徒文化の関係に着目して ―

土田 陽子
（京都大学大学院文学研究科グローバル COE 研究員）

2010 年 9 月

京都大学グローバル COE
「親密圏と公共圏の再編成をめざすアジア拠点」
Global COE for Reconstruction of the Intimate and Public Spheres in 21st Century Asia

〒606-8501　京都市左京区吉田本町 京都大学大学院文学研究科
Email: intimacy@socio.kyoto-u.ac.jp　URL: http://www.gcoe-intimacy.jp/

アブストラクト

本研究は、近代地方都市の公立名門高等学校における生徒文化の特徴と構造について、学校文化（公共圏）と生徒文化（親密圏）の関係に着目して明らかにしようとするものである。本研究では、旧和歌山市を調査対象地とし、県立和歌山高等女学校（以下、和高女という）卒業生へのアンケート調査とインタビュー調査のデータ分析を行った。その結果、以下の知見が得られた。

近代における旧和歌山市は、藩政時代の町の構造を引き継ぐように、和歌山城を中心として北側と東側の旧町人町に商工業地、南側と西側の旧武家地跡に住宅地が多く存在していた。そのため、それぞれ小学校区によって保護者の職業構成やそれに伴う家庭教育のあり方も異なる特徴をみせていた。

和高女には「豊かで充実した教育内容」と「武家女性的な質実剛健さ」という学校文化の特徴があった。学校側はこうした文化を維持するために、厳しい学力試験や心身の鍛錬につながる学校行事、細かな校則で生徒たちを管理していた。

和高女のなかで主流派ともいえるグループを形成していたのは公務・自由業と富裕層の多い「附属小学校」や「住宅地域小学校」出身者である。西洋音楽を始めとする芸術分野において牽引役を担っていたのもこのグループであった。ただし、「住宅地域小学校」出身者が比較的抵抗感なく管理主義的な学校文化に適応していたのに対し、「附属小学校」出身者のなかには、自分が経験してきた自由主義的な家庭の教育方針や、新教育運動の影響を受けていた附属小学校の伸びやかな文化との差異にとまどいや疑問を感じる者が含まれていた。一方、「商工業地域小学校」出身者は、家庭生活において期待される前近代的な町人文化とは異なる文化、すなわちモダンな西洋文化と武家女性的な規範の両方を和高女で身につけていった。

和高女は多様な階層文化が交錯する場であったといえるが、そのなかで生徒たちは学校側が押しつける文化や規範に対して正面から反抗することはなく、「和高女生の本分」という解釈を行うことによって適応していたのである。

キーワード：　近代　地方都市　高等女学校　生徒文化　学校文化

2009 年度次世代研究「近代地方都市の公立名門高等女学校における生徒文化の特徴と構造」（研究代表：土田陽子）による成果である。

【メンバー】（ ）内は 2009 年度プロジェクト時点

土田　陽子　（京都大学大学院人間・環境学研究科 博士後期課程）